

しばらく考えてから、わたしが、
「おまえは、わたしを煮にて食うんだ。」と答えると、青い眼玉は、
「それじゃ、煮て食ってやろう」
と言って大なべを火にかけた。ところが、すぐにその手を休めて、
「さてよ、煮て食べたら、おまえが言ったことは本当になるじゃないか。それなら、焼いて食べなきゃならないな。」
と言って、大きな串を取り出した。ところが、
「しかし、焼いて食ったら、おまえの言ったことはウソになるから、やっぱり煮て食わなければならぬわけだ。」
と言ってまた悩みだした。しかし、煮て食おうとすると、わたしの言ったことが正しくなるので、焼いて食わなければならない。焼いて食おうとすると、私の言ったことは間違いとなるので、煮て食わなければならない……。青い眼玉は、どうやって食べたらいいのかわらなくなって、パニック状態に陥ってしまった。そのすきに、わたしは、まんまと逃げ出すことができたと言う訳なのさ！